



泊船集

上

やうやく宗鏡貞伝のりてみりて
 先師を侍したる一正風ぬこ入る
 ともいふあつしうさあをたれも今も
 入る言も入る毎か一こたつらよあそ
 ともよとも必宗平を換一こよと祐を
 まいよたつらあつしうさあをたれも
 舟よあつしう一こよと祐を
 遺福流泊乃事ささし集し浦し

今依ぬとも書く好海
 只集よあ或ハ人の耳よ乃こるは
 向を給ひささし集し浦し
 士乃あよあつしう一正風ぬこ入る
 泊るよ乃さつらあつしう一正風ぬこ入る
 乃遺福乃事ささし集し浦し
 舟よあつしう一こよと祐を
 まいよたつらあつしうさあをたれも
 舟よあつしう一こよと祐を

乃乃紀若千一今一まぬあ
よ乃くはまゆとまうし
しとし子

風國謹識

元禄拾一

初秋

泊船集巻之一

芭蕉翁道乃報

千里千旅として路類を
三更月下世何入とら
あし乃人乃杖はきり

泣あめ川乃早瀬よかろし
浮舟乃波を志乃ぐにまきま
まきまのま乃命まらるるを
まきまの秋の風よ
ひやちるまあまのまはま
と秋のうらみあまのげに

猪子

あまのかげに

大井川
秋乃日乃雨
指おん大井川

眼を

乃乃く乃才權いさよ
くまの島

二十日餘り乃月うまう年
山乃根ぎまゆくま年
多むらまをた持く教里
雞鳴やすす杜牧、早し
殊く多小松乃体山よ
もらまらな

馬千夜て海

ちやら

松屋や一風瀑の伊勢に有る。

とるる位し十日さの
と

鳥井やん陰ほりくは
まよこよんさしと

其日乃くさある葉底千一に
まゝの千一しるゝくゝる。ちんあ
あとの名よ世夜句せよとて白お結
ち

蘭乃香也蝶乃翅よ
あはれあはれ

閑人乃草予今遊也

葛花之行回文存也
あはれあはれ

長月やい物なつゝ海ちりて世
乃空草とちあれ枯果と事と
まゝの千一しるゝくゝる。ちんあ
あとの名よ世夜句せよとて白お結
ち
三口葉のたのまの千一しるゝくゝる。ちんあ
守りて世夜句せよとて白お結
あとの名よ世夜句せよとて白お結

あつちの眉をたかまら
たつちの眉をたかまら

あつちの眉をたかまら

あつちの眉をたかまら

あつちの眉をたかまら

大和國下川橋

乃郡系一乃西

あつちの眉をたかまら

あつちの眉をたかまら

あつちの眉をたかまら

あつちの眉をたかまら

二上上當麻寺詣り

あつちの眉をたかまら

あつちの眉をたかまら

あつちの眉をたかまら

あつちの眉をたかまら

川たつが幸に〜し〜

僧お顔も火く〜

獨り野た〜

〜し〜深〜白河

〜た〜

〜東よ〜

〜乃〜

〜い〜

〜乃おは〜
〜に〜
〜乃〜
〜乃〜
〜乃〜

海

西上〜
奥乃陸〜

程半入からうもるるか
さしきさしきさしき
さしきさしきさしき
さしきさしきさしき
さしきさしきさしき

露さしきさしきさしき

系是枝葉あり
ゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆ

山も登り故より。に秋乃日既
斜にあり川を谷あるまふく人
結しては信既既事一なる
あり

御之原年をさしきさしき

大和の山城を離る近江路際
入し弟下流のさしきさしき
さしきさしきさしき

伊勢乃武がらひのり
高年一似多は輝凡のり
乃のりもいふらん

義朝乃んは細まり

あまの風

不破

秋月や数も白田七

不破の園

大垣の海りやる
やあ。〜武蔵野一
野き〜ふふた
半れと

ア死よしや如流ねの果子
あまのり

葉名本高き

父牡丹子多よる
あまのり

昔一乃ま〜〜一度あふ〜
ほ乃〜〜中一に瀆乃〜〜也て

あけのや
事一魚白寸

熱田
清

社頭大イニ破き築木也ハ〜
〜予村〜
繩も〜りて小社〜
〜一〜反に不〜

神と名乃〜
乃ま〜
也度〜

志乃ぬ〜
餅

名護屋入道乃程諷
吟

狂句用れ身ハ外〜
似

昔乃ま〜
乃

京に登りて三井秋風の鳴滝
乃山家もよ

梅林

梅白し 咲き残るを
ぬきまわれ

橙乃木乃花
うらやめはな

伏見西山片古ほに上人
あはれ

我衣子婦と乃桃の雲

大津千も乃山路

やまゆきもてちのよ

湖氷眺む

幸一寺のまゝハ

晝乃休むとて

腰もあし

いけて其陰も千鶴
さく女

吟

茶留子 ちんちん

水口より廿年を経る

故人のあま

今ニツ甲子年活あり

十一年

伊豆の必野の小島乃葉木川
し去年一乃秋よりひ孫おのり
我名をたし一乃乃松乃道法
北平一乃尾野の園あり一踏
一乃葉木川

ふたつは種ま

此僧のいふ若く曰周々なる大
顛初尚と一む月のは一め許化
たふまふ一もや枯しのた
せも一せんらより其角が方
一由一は

梅のさる卯の花有せ

賜杜少子

白くよき花のついでに

二つあり桐葉子のついでに

今やあつまるついでに

牡丹並葉のついでに

蜂のるる花

甲斐及乃必のついでに

ゆく駒乃麦のついでに

卯月の末のついでに

ついでに

おのつたのついでに

はくつた

後へよまのついでに

素堂乃跋ある今

畧之

前研

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

印上

泊船集卷之二

芭蕉菴拾遺稿

雒陽 風國撰次

まろ乃部

え日中田とるは
誰のいふやうに似たり

え日ハひるも
わらわらしくぬ

二日トもぬのまはち
まひる

三日はも閉て題正月

四日

大津繪乃學業乃たむ何佛

京ちりよてあはれまはる

いふまじし誰か花は

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、一百一十、一百一十一、一百一十二、一百一十三、一百一十四、一百一十五、一百一十六、一百一十七、一百一十八、一百一十九、一百二十、一百二十一、一百二十二、一百二十三、一百二十四、一百二十五、一百二十六、一百二十七、一百二十八、一百二十九、一百三十、一百三十一、一百三十二、一百三十三、一百三十四、一百三十五、一百三十六、一百三十七、一百三十八、一百三十九、一百四十、一百四十一、一百四十二、一百四十三、一百四十四、一百四十五、一百四十六、一百四十七、一百四十八、一百四十九、一百五十、一百五十一、一百五十二、一百五十三、一百五十四、一百五十五、一百五十六、一百五十七、一百五十八、一百五十九、一百六十、一百六十一、一百六十二、一百六十三、一百六十四、一百六十五、一百六十六、一百六十七、一百六十八、一百六十九、一百七十、一百七十一、一百七十二、一百七十三、一百七十四、一百七十五、一百七十六、一百七十七、一百七十八、一百七十九、一百八十、一百八十一、一百八十二、一百八十三、一百八十四、一百八十五、一百八十六、一百八十七、一百八十八、一百八十九、一百九十、一百九十一、一百九十二、一百九十三、一百九十四、一百九十五、一百九十六、一百九十七、一百九十八、一百九十九、二百

人し、ぬさう、や、き、は、い、は、り、あ

年、も、や、積、り、な、る、ま、ま、り、積、り

葉、業、の、下、に、お、か、い、せ、の、初、便

系草

草、葉、の、下、に、お、か、い、せ、の、初、便

風

ま、ま、ら、い、は、い、の、初、便

梅

網、代、民、部、の、身、跡、の、し

梅、乃、木、の、積、り、な、る、ま、ま、り、積、り

山、里、の、万、葉、の、お、そ、梅、乃、木、の、し

一里を歩いたるも一歩
宿作あたらしくぬ寝る
程おもしろや

梅のよき平むけ一文字

あはれ水也

饒し列 東武行

梅若草まきつこ乃宿乃とけ
け

門人何のくみろのくま
馬乃とふそをーたまひし

とらもものよ敷乃はちも梅のそむ

梅柳 ーさやうそ乃所のな女乃

天初乃吐乃吟ーちり

嘗

〜のそや餅小葉舞つ〜梅の上
嘗や柳乃るーるぬ乃そ

陽炎

うけろのや葉胡乃糸竹薄

目録

枯せしやまじうけろよ乃一三寸

伊賀新大佛之記 今畧之

史二年 陽炎之書 石乃一巻

其の

不性たやのた数十二 其の

其の乃たののた軍一

其の向也

略

其の乃たののた軍一

紙生ぬ入ぬ

電

ま〜ま 都 鐘 瑠 璃 小 歌
出 世 電

憂 心 方 知 酒 乃 不 憂

貧 乏 覺 錢 神 一 夕

電 浮 世 我 酒 白 く 食 罷

右 二 句 八 世 皇 乃 未 乃 辭 一

大 和 乃 七 皇 一 尾 村 乃 一

電 乃 隆 隆 誰 乃 旅 ね 乃 一

乃 の り 乃 汁 乃 ち 乃 ま 乃 乃 乃 乃

電 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

い 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

附 せ 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

一 里 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

西行像讃

~~~~~ハ~~~~~

雪乃好。ハハ

おもしろ

~~~~~あれ花乃好。

目~~~~れに持

~~~~れ

花乃雨~~~~鐘ハ上野~~~~漢着中

二月十七日 旅路~~~~

西~~~~

僧~~~~

裸ハ~~~~月々あ~~~~

横~~~~

~~~~なぬ~~~~

~~~~愛ぬ~~~~

~~~~


まろ乃おハ穽よひし仕あさり

驥別

叶くろ推まよもよ五器一具

種サナやまのたのまをまのりく

花も吸蛇まくくまなま

ちるまやらま何と泳く琴一乃塵

こら白琴十太鼓トのまのま

繪乃賛し

瀬まろくくくくくくく

其角カ白くくハ上野ハは神

ゆめくくくくくくくくく

一聯二句乃格し句を呼く句を

七重七堂伽藍ハ重

宗曹

七心も宿もくくくくく

明日ハ樽乃とともや谷乃老
 是れりくるるありまのの
 砂乃とともあまの
 生前 一樽乃あ乃
 あまの
 孫ハ賢者乃此言をいぬ
 ちりーさやも乃あまのれ
 あまの

白く 似ぬ 昔 向も ちよ 竹 樽
洒落堂乃記畧之
 四方より ちよ 入て 湖乃 邊

芳野 ちよ ちよ ちよ 伊賀
 乃 ちよ ちよ ちよ ちよ
 列乃 社乃 同行 ちよ ちよ
 ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ

芳野 ちよ ちよ ちよ 樽乃 ちよ

さあ〜〜〜
お向故郷〜

さあ〜〜〜

〜〜〜

〜〜〜

〜〜〜

〜〜〜

△
〜〜〜

酒乃〜〜〜

月〜〜〜

三〜〜〜

月〜〜〜

〜〜〜

〜〜〜

涅槃

わん 繪や綴し合き 珠數

いせし

神のまや おもひし掛き涅槃像

前別

蘇乃子杖 魚屋の別れ

蛙

古池や蛙飛込水乃音

此と五又字ヲキ角荒言ニあり

山女也キ角

夜也キ角

二月吉日 是橘

剃髪 入醫門

そむるふ新のそむる

昔の想ひ

ふも乃の海にたしんを蘇へり

大和の海に乃の海に

日乃の海に乃の海に乃の海に

葉の海に乃の海に乃の海に

葉の海に乃の海に乃の海に

茶清也

凍解して葉下に級下濃水の

葉川

青柳の流るる葉川

葉の海に乃の海に乃の海に
其角の海に乃の海に

兩乃の海に乃の海に乃の海に

西ノ深川一乃草葎

あまのこ

争乃乃... 後... 世也

船乃家

博一三九

あまのこ... 塚

世王

猫乃乃

猫乃乃... 体... 乃... 乃...

麦飯... 乃... 乃... 乃...

蝶

蝶乃乃... 乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃... 乃...

蛭子乃替

白道や 雲な月を 照は乃烟

大なるものし 故人の別る

二僕よ 別建 移るり 鹿乃角

二更乃 圖を ぬれ 依り

いさよ 子 潮乃 とも 浦 吹 雲

神楽

何乃 木の 花とも 志 不 ぼひ ぬ

題

も 曾乃 情 電や とも ぬ ぬ なる

おもしろいや歯よ〜いさ 海苔を
かきとまき〜 ちよこのまきと風
の葉

大比枝や〜と〜

ひのこの吟 一のこのこ

ま〜ぬ実不舌ハ〜

尾細〜お摺〜

お摺〜のり〜のり〜のり〜
お摺〜のり〜のり〜のり〜
お摺〜のり〜のり〜のり〜

お摺〜のり〜のり〜のり〜

お摺〜のり〜のり〜のり〜

お摺〜のり〜
細路〜



